



田村市立都路中学校 学校だより 第23号

令和7年10月3日（金）
発行責任者：校長 佐藤 仁
TEL：0247-75-2009

めざす生徒像：自らの志を語り、目標に向かって主体的に努力できる生徒

めざす学校像：志を育む学校 学び合い、高め合う学校 信頼され、愛される学校

小さな幸せ

「小さな幸せを見つけて心とむ」（郡山市 高校生）

テスト期間のある日、いつもの電車より1本早い始発に乗りました。乗客は少なく、学校までの道にも人がほとんどいませんでした。自分だけ違う世界にいるようで、とても不思議でした。

その日、なんとなく猫に会いたいと思って学校に着くまで探しました。そうしたら3匹に出会えました。通学路に咲いているシロツメクサとクローバーがすてきで、四つ葉のクローバーを探してみたいと思っていたので、その日は立ち止まって探しました。なんとすぐに見つかりました。うれしくなって写真を撮りました。

友達に話したら「小さな幸せだね」と言ってくれました。忙しいと、いろいろなことを見失いがちになります。みなさんもぜひ小さな幸せをみつけてみてください



（福島民報「みんなの広場」（10月3日）から）

投稿にあるように、忙しい日々の中にも気づかないだけで大小関係なく幸せなことがたくさんあると思います。登校・下校途中、学校生活や家庭生活、地域の生活の中に幸せはあるはずです。

私としては、毎朝登校してくる生徒と交わす「おはよう」のあいさつや授業などで生徒の皆さんが見せる笑顔に幸せを感じます。生徒の皆さんが当たり前で過ごす学校生活が一番の幸せです。家庭生活で言えば、高校生の子どもが寝足りない表情をしながら起床してくる様子を見ながら家を出ること、疲れた表情をしながら帰宅し学校生活の愚痴や楽しかったことを話している姿を見ることにちょっとした幸せを感じている自分に気づくことがあります。どれも毎日繰り返される当たり前のことですが、中高生に関する事件・事故などの報道を見聞きすると、幸せを感じるセンサーが大きく働きます。

同じことを見たり、聞いたり、経験したりしても、それを幸せと感じるか、見過ごしてしまうかはその人次第。ただ、身近な人に言われて後から思い返した時に、「あれは幸せなことだったんだ」と思うこともあるかと思います。物価高や過去に経験のないような豪雨による自然災害など、生活に直接関わる問題があるにせよ、今の日本は平和を享受できる環境にあります。それゆえ幸せボケしていることも否定できないと思います。何でも整っていて困り感の少ない環境の中では、本来幸せであることも当たり前になってしまい、気づかず通り過ぎてしまうのかもしれない。

投稿した高校生の何気ない日常で見つけた小さな幸せ。それを友達と共有したこと。とても素敵だと思います。藍爽祭を10月18日（土）にひかえ、生徒の皆さんには勉強や藍爽祭に向けた準備、練習にと忙しい日々が待っています。（すでに忙しく活動している生徒もいます）藍爽祭成功に向けて、個人で準備や練習を進める場面、他と協力しながら取り組む場面があるかと思います。個であろうが他との協働であろうが、藍爽祭に向けた準備や練習、当日の運営を通して観る人に元気や笑顔を届けること、個として、集団として成長することが大きな目標です。そして都路中学校の絆が深まるのが目標です。藍爽祭を創っていく過程の中で、それまで気づかなかった人の気遣いややさしさにふれる機会も多くあると思います。それは間違いなく幸せな瞬間です。幸せな瞬間を多く積み重ねた先に藍爽祭があり、生徒の皆さんのパフォーマンスを観た人も幸せな気持ちになる、そんな藍爽祭になることを期待しています。

がんばれ！ 都中生